

# 使っていると良さ、有用性がわかってくる



## ●白梅学園大学・白梅学園短期大学

東京都小平市小川町1-830

白梅学園大学：子ども学部、短期大学保育科、発達臨床学科、家族・地域支援学科

白梅学園短期大学：保育科

と活用されているのがGATBということになりますね。

大学では3年の春、短大では1年の秋に実施。進路ガイダンスの中で全員に受検させています。

GATBは言語・非言語領域の問題のバランスが非常にいいんです。進路指導の責任者としてぜひ学生に受けさせたいものだと感じています。

入学した学生の基礎的な能力を、ある程度知ることができます。われわれとしては、学生が就職

人間の価値を最高度の実現しようとする「ヒューマニズムの実践」を建学以来の精神とする白梅学園。大学子ども学部、短期大学保育科ともに「子どもを中心とした人間全体を学ぶ教育」を展開しています。保育、幼児教育分野で歴史と伝統があり、保育現場を中心に多数の卒業生を輩出している白梅学園でも、進路指導にはGATBが必要であるといえます。

## 進路指導に欠かせないGATB

本学では、20年以上前、短大しかなかった時代からGATBを利用しています。他の検査もいろいろやりましたが、進路指導でず

選考に臨んで他大学の学生と競い合う時に、この学生は何ができるのか、何ができないのか、というのを把握したい。それをチェックするにはびったりです。年次ごとにチェックしていくと、今年の学生は言語領域がいいとか数理がいいといったようなことがわかる。大学と短大、また学科によってもはつきり違いがわかります。問題の中身は変わらないので、同じ尺度で学生の能力を比較できるわけですね。就職の結果を見ても、関連性が見られます。

GATBの結果については、基本的に「いいところを見つけなさい」と学生に言います。弱点ばかり着目してもしょうがないので、



学生部 進路指導課長  
西野 輝氏

自分の強みはどこかを理解しようという指導をします。

本学は複数の資格取得を目指すカリキュラムとなっており、ガイダンス実施の回数・時間も限られているので、短い時間で効率的に進路指導をするためには、GATBは欠かせないものです。学生の能力をとらえるのに非常に適しています。間違いなく今後も活用していくと思います。

ハローワークの求職者や中学生、高校生にも活用されているのも、汎用性、応用性が高いからでしょうし、教員志望の学生たちは、将来自分が実施する側になることもあるでしょう。

## 自分で作る「ワーク」を

私は、就職活動の時間をもっとゆったりと取ってあげたいといつも感じています。大学生となると、やはり自分で考えて行動するというのが大切です。限られた時間で就職活動させることは、マニュアル化しやすいものになってしま

う。就職先選びにしても、与えられたものに手を出すようなことはやめてほしい。自分の人生をきちんと考えながら、自分のために働く環境を選ぶような就職活動をしてもらいたいと思っています。本学の学生は4年になっても実習があるなど、学業と就職活動の両立が難しいので、心配なところではありますね。

先日、汐見稔幸学長が学生に向けて「働くということ」というテーマに講演をしたのですが、その中で「レイバー (labor) ではなく、ワーク (work) を目指しなさい」と語りました。「レイバー」は「させられる」という使役的な語感があるが、「ワーク」には作品という意味もある。自分で作っていくものだから、こだわりがなくはない。これでいい、ではなくてずっと続いていくもの。自分の意思で選んで楽しみをもって働いていくことが大切なんだ、と。子どもを指導する側になった時に、1000人の子どものがいたら対応は100通りある。「ワーク」という意識があれば、自分で工夫して対応していける教師・保育士になれるでしょう。

GATBも「ワーク」を目指すためのツールです。進路指導の仕事をしているとGATBの良さがわかってきますね。本当に助けられています。

# 就職に柔軟性をもたせるのにも効果的



理工学部教授(教育学博士)  
FD委員会委員長 学生相談室相談員  
**横山 明子氏**

理工学部の横山明子教授は、キャリア関連の授業(1~4年生)を受けもつ一方、学生相談室での相談も担当し、進路問題について悩んだり、どうしていいかわからないという学生への支援も行っています。

## 自分のよき面に気づく

横山 GATBは、各学年に設けられたキャリアデザインの授業の中で、授業では1コマで検査を実施、もう1コマを採点・フィードバックにあてています。ワークシートをやってもらい、自分で職業について調べ、どういった分野が自分にとって得意なのか、結果を振り返ってレポートしてもらいます。自分の適性が高かった職種に具体的にどういった仕事があるかを細かく調べ

実施しています。また、個別にキャリアサポートの中で、あるいは進路に関わる相談の中で使っています。進路相談等の中での個別実施は、かなり以前からやっていたのですが、集団実施を始めたのは昨年からです。今まで興味検査を使っていたのですが、興味だけで選んでも実際何ができるのかわからないので、能力のほうも見たいと考え、結果がはつきり出るのはわかりやすくいいです。どのへんが得意でどのへんが苦手か。学生にフィードバックする時は優れた面を言いますが、私のほうでは学生の不得意分野も見えています。興味があつて行きたい分野が不得意分野、という学生の場合、カウンセラーと相談して対応します。普段の授業、成績などではわからない面を見たりするのにも役立ちますね。



## ●帝京大学宇都宮キャンパス

栃木県宇都宮市豊郷台1-1

理工学部(機械・精密システム工学科、航空宇宙工学科、ヒューマン情報システム学科、バイオサイエンス学科、情報科学科)、医療技術学部(柔道整復学科)、経済学部(地域経済学科)

実施しています。また、個別にキャリアサポートの中で、あるいは進路に関わる相談の中で使っています。進路相談等の中での個別実施は、かなり以前からやっていたのですが、集団実施を始めたのは昨年からです。今まで興味検査を使っていたのですが、興味だけで選んでも実際何ができるのかわからないので、能力のほうも見たいと考え、結果がはつきり出るのはわかりやすくいいです。どのへんが得意でどのへんが苦手か。学生にフィードバックする時は優れた面を言いますが、私のほうでは学生の不得意分野も見えています。興味があつて行きたい分野が不得意分野、という学生の場合、カウンセラーと相談して対応します。普段の授業、成績などではわからない面を見たりするのにも役立ちますね。



宇都宮キャンパス  
キャリアサポートセンター課長  
**川澄 真氏**

横山 学生は自己理解がなかなかできずに、就活時にエントリーシートに書く自己PRに苦労しますが、適性検査や興味検査から探っていくのがいいのではないのでしょうか。GATBは、自己発見できるツールです。

今年度は、自分の興味や優れたところなどをもとに、自己PRをつくることにつなげていければと考えています。そのためには、できるだけ自己理解と職業理解の両方を並行してやっていきます。普段の自己理解から、自分にでき

ることにつなげています。GATBは、自分の能力的な面を確認するわけですが、良いところを自分で発見できる。成績が芳しくなくて自己評価が低い学生でも、「自分はこういうところが良いんだ」という気づきにつながります。苦手なところより、良いところをもっと伸ばす、ということが大切です。低年次では職業について興味を持つ入り口にもなります。

## 就活でつまづかないために

横山 学生は自己理解がなかなかできずに、就活時にエントリーシートに書く自己PRに苦労しますが、適性検査や興味検査から探っていくのがいいのではないのでしょうか。GATBは、自己発見できるツールです。

より広い視野で仕事を探してみることにつながるためにも、GATBは有効だと思えます。例えば、バイオサイエンス学科で、「総合的に考えた結果、私は研究職に行きたい。それがすべてです」という学生がいました。能力的にも適性がありますし、自己理解としては合っている。でも現実にはその仕事の求人がない。その時に、「営業とか販売なら求人があります」と勧めても、本人の決定がかたくなすぎて、「それは自分のやる仕事ではない」と。それで就職の機会を失って、結局決まらなまま卒業していく。



専門学校活用事例

総合電子専門学校

自分と向き合った就職活動を促す



就職情報センター  
室長

坂田 誠氏

**ファイドバックは  
ていねいに**  
坂田 1年生の秋、最初の就職方



●学校法人湘南ふれあい学園 総合電子専門学校

神奈川県相模原市南区上鶴間本町3-18-27  
情報デザイン科(コンピューターグラフィック、グラフィックデザイン)、情報システム科(ゲームプログラミング、システム・Web開発、ネットワーク、オペレータ・ヘルプデスク)、医療マネジメント科(医療秘書・医療情報)

坂田 この学生には強い言い方で落ち込んでしまうということもあ

総合電子専門学校は、少人数教育により学生と教職員の距離が近いのが特色。学生についての情報を教職員間で共有し、適切なサポートができる体制をとっています。昨年度初めてGATBを導入しました。

イダンスで全員を対象にGATBを実施しました。学生は、きちんとまじめに取り組んでいましたね。判定結果をいただいでから、アドバイザーの武田を中心に個別面談により、ファイドバックをしました。

坂田 本校では、教員が学生一人ひとりのことを熟知しています。1学年70〜80人くらいの少人数教育の中で、「ダメな子でも立派にする学校」を目指しています。い

社がいいのか」という話ができるんだすけれども、逆の場合、「こういう結果が出ているけれども、それではどうすればいいか」ということになります。

**GATBの利点**  
坂田 GATBの良さという点、信頼性でしょうね。結果を見てみるとやはり納得できる。今秋にまた実施する予定でおります。



キャリアアドバイザー  
武田智美氏

坂田 今年は何も打ち込んだことがないという学生もたくさんいますが、彼らは放つておいてもちゃんとできる。今の18、19の子にどういふところが足りないかを把握し、それにいかに対応するかというのほどこでも共通の課題だと思っんですけれども、どう解決できるかが、それぞれの学校の特徴であり、勝負どころだと思っんです。

武田 「職業適性の要素はいろいろあるけれども、これはパーソナリティではなくて能力なんだよ」と説明しやすいですし、結果のファイドバックの時に、プロフィールのグラフのラインもわかりやすいです。こういう職業の時はこれだけ必要、ということも伝えます。こういう能力が苦手じゃないかな、ということも話せる。

武田 今年はずまず面談をやつて、GATBをやつて、その後また面談をしたんですが、ここ数年の学生に比べると自分とちゃんと向き合つていたと感じます。GATBのおかげもあつたのか、自分を見据えたいと企業研究をして、自分はこの会社でちゃんと働いていけるのかを調べているなど思いました。

1年生の最初に言つて、「学生時代に何も打ち込んだことがないとESにも自己PRが書けない。ここで打ち込むものを作るんです」と。書けるようになる、その姿勢を促していくことが一番重要ではないかと思っんです。

# 職業的自立へのステップに向けた手ごかりに



総括コーディネーター兼運営責任者  
(NPO法人青少年自立援助センター)  
長谷川 晃氏

サポート事業は、若年無業者等の自立支援を目的としています。

## 「自分探し」のヒントとして

サポートの来所者は、それぞれに課題をもっていますが、あだちサポートでは、就職活動の準備をし、自立へ向けて踏み出すことを支援するために、GATBを活用しています。



## ●あだち若者サポートステーション

東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター 8F  
全国116カ所にある地域若者サポートステーション（愛称「サポステ」）は、ニート等の若者の職業的自立を支援するため、個別的・継続的な相談、各種セミナー、職業体験など、総合的な支援を行う。足立区では、厚生労働省と足立区の委託を受け、NPO法人青少年自立援助センターが運営。利用対象者は、義務教育終了後の15歳から30代までの若者。

来所する若者の特徴として、「選ぶ」とか「決める」といったことがなかなかできない子が多い。自己理解ができていなくて、自分探しを主体にしなければならぬ子が多いためです。そういう時に、このGATBを使うと本人の強み・弱みがわかるので、自分の向いていそうな職種を絞り込ませるとか、逆に自分が行きたい職種があるのであれば自分に何が足り

ないかというのを見つけさせる。仕事探し・自分探しのヒントとして活用させていただいています。GATBのセミナーは人気がありますし、自分のことを理解するきっかけが早めできれば行動を促すことにもなるので、毎月やっています。

来所される方は、ハローワークや就労支援機関、自治体関連施設等でチラシを見て、あるいは最近ではホームページを見て来たという方が多くなっています。

あだちの特徴としては、カウンセリングだけでなくセミナーを多くやっていることですね。集団行動の中で自分に何ができるかを見つけさせるという面を一つのテーマとして、自分のことを知るテスト系、コミュニケーション系、就活・アルバイト（アルバイトを始めための活動）、ボランティア、定着支援などのメニューの中で、それぞれ階段式にレベルを変えてセミナーを設定しています。利用ニーズに合わせて変動もします。

本当はもっと早く、社会に出る前の中学・高校の段階で気づきがあるといいでしょうね。早い段階で自分の方向性をつかんだったり、自分の足りないものを吸収したりしてきたら、今のこういった社会環境でも何とかがんばっていきけるのではないかと。時代的にも以前だったら社会全体でもう少し受け入れてくれて育ててくれた環境があったと思うんですね。今は企業側が受け入れられない状況になっている以上、そこに早く適応できるように学生生活である程度身につけたり、考えを深めたりしたら、だいぶ違うと思うんですけども。

## 「職業レディネス・テスト」とセットで

GATBは、スタッフにも全員受けさせています。自分の特徴を理解したうえで相手に接することにもなる。プログラムとしては、1日目（2時間）は検査の実施と「結果の見方・生かし方」（ワークシート）のWORK2まで。2日目（2時間）はその結果を元にWORK3を作っていきます。簡単

な解釈の仕方の説明をして、あとは家に持って帰ってやってもらうか、キャリアカウンセラーに個別面談でカウンセリングを受けるか、ですね。職業レディネス・テストとセットにしてパーソナリティとともに解釈してもらえます。この2つの組み合わせは使いやすいと思っています。



ただ、これを受けることで答えが出るものだと思います。勘違いしないように注意しています。

アンケートを見ると、「自分の考えていたとおりだった」という人もいれば、「真逆だった」と答える人もいますが、受けてみて「ダメだった」という人は少ないですね。「今回の検査結果で得たものを今後の就活に活用していきたい」というように、やっぱり自分の進みたい道や考え方の参考にしたいたいという声が多いです。